

副市長、各行政委員会委員が 決まりました

副市長、教育委員会教育長および教育委員、監査委員、固定資産評価審査委員会委員については、1月臨時議会において同意が得られ、選挙管理委員会委員については、昨年12月定例議会において選出されました。就任された方々をご紹介します。(敬称略)



教育委員会教育長
丹野 学(福島市松川町)



副市長
齋藤 源次郎(湯川町)



固定資産評価審査
委員会委員長
紺野 岩男(戸沢)



代表監査委員
二階堂 公治(竹田)



教育委員会教育長
職務代理者
佐藤 英之(安達ヶ原)



固定資産評価審査
委員会委員
鹿野 雅弘(郭内)



固定資産評価審査
委員会委員
小沢 昌子(休石)



固定資産評価審査
委員会委員
二階堂 賢一(油井)



固定資産評価審査委員
会委員長職務代理者
根本 清一(小浜)



選挙管理委員会委員
菅野 善昭(南町)



選挙管理委員会委員
桑原 恒雄(小浜)



選挙管理委員会委員長
職務代理者
平舘 泉(根崎)



選挙管理委員会委員長
佐藤 朝弘(針道)

2018年版第6回日本

「住みたい田舎」

ベストランキング発表

『子育て世代が

住みたい田舎』部門で、

二本松市が



福島県内 …… 1位

東北エリア内 …… 4位



▲宝島社「田舎暮らしの本」2018年2月号表紙

「住みたい田舎ベストランキング」とは…

㈱宝島社が毎月発刊している「田舎暮らしの本」の中で、全国の自治体を対象に2013年から毎年アンケートを行い、田舎暮らしの魅力を数値化してランキング形式で紹介するもの。今回のアンケートには、過去最高の全国671の市町村から回答があった。

このランキングでは、全世代対象の【総合】ランキングのほか、【若者世代】【子育て世代】【シニア世代】の4部門でランキングが発表されている。

福島県内で1位

本市では人口減少対策のため、関係する事業者や団体等の皆さまと協力しながら、官民一体となって定住・移住促進の取り組みを進めています。

このたび、株式会社宝島社が発行する「田舎暮らしの本」(2018年2月号)において発表された「2018年版『住みたい田舎』ベストランキング」の子育て世代部門で、回答のあった全自治体の中で、二本松市が福島県内で1位となり、東北エリア内でも4位となりました。

このランキング発表は今回が6回目となり、二本松市としては初のランキンとなりま。

誰もがいきいき生活できるまち

にほんまつ

ランキングを決めるためのアンケート項目は全

部で194項目。その中で子育て世代部門のアンケートは、「子育て世帯を対象とした移住奨励金があるか」や「子育て世代への家賃補助があるか」、「第2子以降の保育料は無料か」などの内容でした。

本市ではこれまで、出産時の交通費全額助成や保育料の第2子以降の無料化、18歳までの医療費無料化など、定住・移住を促進するための各施策に取り組んできました。今回の結果は、これまで行ってきた施策がランキングという形で表れたものです。

これからも、さらに住み良い二本松市を実現するため、市民の皆さまと一緒に進んでいきます。



▲子育て支援センター豆まき会の様子